

令和6年2月26日

保護者各位
生徒の皆さんへ

日本大学高等学校
校長 田村 隆

令和5年度自己点検・評価の実施結果について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動及び学校運営にご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、本校において、毎年度、教育活動等の学校運営の状況について、自らで点検・評価を行い、魅力ある学校づくりのため、改善・改革に取り組むことを目的に自己点検・評価を実施しています。自己点検・評価では、「組織的な自己点検・評価」、「教員個人による自己点検・評価」及び「生徒による授業評価」を実施しています。

「生徒による授業評価アンケート」については、全校生徒の協力を得て実施しており、令和5年度は令和5年10月に実施いたしました。このアンケートは、「授業改善のための問題発見の機会」、「教員が自らの努力の成果を確認する機会」を設けることにより、生徒の視点や理解に合わせた授業となるよう、更なる改善を図ることを目的としています。

また、自由記述形式の「学習活動及び学校生活全般についての意見や要望」の欄を設け、生徒からの具体的な意見や要望にも対応できるよう構成されております。

このたび、「生徒による授業評価アンケート」結果を含む令和5年度自己点検・評価結果について、次のとおり取りまとめましたので、生徒の皆さん及び保護者の皆様にお知らせいたします。本校においては、この結果を基により一層の教育力向上を図ってまいります。

今後ともご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

1 自己点検・評価概要

平成29年度に本校が策定した教育スローガン“*Aiming high!*”並びにサブスローガン“*SHINKA!*”に基づき、全ての教職員、生徒及び保護者、さらには、受験生とその保護者等に至るまで、機会あるごとにあらゆる手段を通じて目指す生徒像などを明確に示し、その浸透に努めています。

令和2年度末に策定した新たな本校の中長期計画となる「日本大学高等学校・中学校基本計画（令和3年度～令和13年度）」を組織的かつ体系的に推進し、絶えず検証しながら、具体的な施策に繋げていくものとし、“*Road to 100th*”というキャッチフレーズのもと、広く学内外に周知して、本校が目指す方向性などについて指し示すとともに、着実な実行に向けた公約という認識で推進しています。令和5年度が同計画の策定から3年目にあたることから、各項目についてリフレクションするとともに、次の3年間に向けた検討課題を洗い出し、各部署において精査した結果内容を全教職員で共有し、共通理解に努めています。

「日本大学高等学校・中学校創設100周年記念行事プロジェクト」については、本校創設100周年に向けたマイルストーンを設定し、計画的かつ具体的に進めることが

できるよう努めています。特に、新たなキャンパスの構想に関しては、より具体的な検討を進めていく重要な年度として位置づけ、その過程においては、“生徒ファースト”であることを常に念頭に置き、生徒が主体的に学び体験することのできる未来型の施設設備等を構想できるように取り組んでいます。

2 「生徒による授業評価アンケート」

① 生徒自身に係る質問

(1) 令和5年度結果

〈A〉授業中（授業自体に関する設問）

①【参加度】「自ら積極的に授業に参加している」、②【参加度】「授業内容をノートやタブレット等で工夫してとり、復習に役立っている」に関しては、「あてはまる」（以下A）、「大体あてはまる」（以下B）と回答した生徒が①では87.0%で昨年度に比べ1.1%の上昇、②では88.6%と昨年度に比べ0.4%上昇しており、概ね良好な評価となっています。多くの生徒は真面目に授業に取り組んでいる様子が見受けられます。

③【疑問点】「疑問点は自ら調べたり、先生に質問している」に関しては、「あまりあてはまらない」（以下C）又は「あてはまらない」（以下D）と回答した生徒は24.9%で昨年度とほぼ同様の評価となっています。わからないことや疑問に思ったことをそのままにせず、タブレット（ロイロノートや学習サプリ）等を有効に活用し、積極的に担当教員へ質問をしたり、授業の復習をすることも改善方法の一つです。

④【目標】「授業の目標や計画を十分に理解している」に関しても、A又はBと回答した生徒が78.6%で昨年度に比べ0.5%上昇しており、概ね良好な評価となっています。さらに、生徒自身が高い意識を持って授業に臨めるよう、私たち教員がより一層教育力を高め、質の高い授業の展開に努めてまいります。

〈B〉心構え・姿勢（予習・復習等に関する設問）

①【授業準備】「予習など必要な準備をして授業に臨んでいる」に関しては、39.4%もの生徒がC又はDと回答しています。授業での理解度を高め学力の向上を図るためにも、あらかじめ授業の準備をして臨むことが重要です。

②【定着努力】「学んだことを忘れないように復習している」に関しても、31.7%もの生徒がC又はDと回答しています。①、②ともに他の項目と比較するとC又はDと回答した生徒が多く、家庭での学習習慣が定着されていない生徒も見受けられます。学習準備に対する姿勢と事後の学習内容の定着に向けた取り組みについては、改善の余地があると思われます。

〈C〉生活・課外（学校生活や友人との交友に関する設問）

①【学校生活】「校則やマナーを守って生活している」に関しては、96.2%、

②【学校生活】「学業と部活動が両立している」に関しては、83.3%、

③【コミュニケーション】「友人関係がうまくいっている」に関しては、95.6%、

④【コミュニケーション】「学校生活が充実している」に関しては、92.6%

の生徒がA又はBと回答し、全体的に充実した学校生活を送れているようです。

しかしながら、悩みを抱えている生徒も少なからずいるようです。悩みや困ったことがある場合に教職員や友人に相談しやすい環境の構築に努めてまいります。

② 授業に対する評価

〈A〉プレゼンテーション能力に関する設問

今年度は、①【説明】「授業の説明はわかりやすい」(88.8%)、②【話し方】「話し方は明瞭で聞き取りやすい」(90.2%)、③【板書・資料】「板書や資料は見やすく工夫されている」(89.9%)、④【進度】「年間の計画どおりに授業が進んでいる」(95.4%)の4つの設問に関して、A又はBと回答した者がそれぞれ90%前後となっており、どれも昨年度を上回る極めて良好な評価となっています。この結果に満足することなく、定期的に教科毎で研究授業を実施するなど研鑽の機会を増やし、より充実した授業を展開できるよう努めてまいります。

〈B〉コミュニケーション能力の設問

①【関係】「質問への対応がわかりやすい」(91.5%)、②【熱意】「授業に対する熱意が感じられる」(92.6%)の2つの設問は、生徒と教員間の円滑な交流と相互の信頼関係が構築されているかを図る指針となるものです。それぞれA又はBと回答した生徒が90%を超えており、どちらも昨年度と比べ1.5%上昇しており引き続き良好な評価となっています。今後も熱意をもって理解しやすい授業を展開できるよう、更なる教育力の向上に努めてまいります。

〈C〉授業の効果に関する設問

①【授業の理解度】「小テストや宿題でより授業が理解できた」に関しては、A又はBと回答した生徒が88.9%で、昨年度と比べ1.6%上昇、②【効果】「この授業を受けて学力や技能の向上を実感している」に関しても、A又はBと回答した生徒が86.6%で、昨年度と比べ1.3%上昇しており、どちらも昨年度までに引き続き良好な評価となっています。今後より一層、生徒たちの興味や好奇心を生み出せるよう、主体的・対話的で深い学びの視点から、生徒が「楽しかった」「わかった」と実感できる授業の展開に努めてまいります。

3 学習活動及び学校生活全般についての意見や要望

アンケートの自由記述欄には、約23%の生徒が意見や要望等を記載していただきました。主な記載内容は、次のとおりです。

- ・食堂、購買、自動販売機での食品販売が充実してきたので嬉しい。
- ・自習スペースと利用時間を増やしてほしい。
- ・自動販売機の価格帯をもう少し下げて欲しい。
- ・学校行事（校外研修、球技大会など）をもう少し増やしてほしい。
- ・冬服と夏服の制服移行期間、コートやマフラーの着用期間を広げてほしい。
- ・夏服の着用期間にポロシャツの着用を採用してほしい。
- ・女子の制服にスラックスを選択できるようにしてほしい。

これらの記述内容についても検討し、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばす教育を推進するため、一層の改善を進めてまいります。

令和6年度におきましても、ご理解とご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

以 上